

## 滑川西地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
① 街灯	滑川と水橋を繋ぐ幹線道路の街灯を充実させてほしい。街灯が街路樹で覆われており、数も少ない。ぜひ一度、市職員と西地区の町内会役員で夜回り点検し、問題個所の洗い出しと早期の整備に努めてほしい。	昨年、担当者らで、ご指摘の箇所を含めて見回りを実施し、必要性について実感したところですが、予算制約の問題から設置に至っていません。ただ、放置はできないので、地域の皆様のお力もお借りし、前進していきます。また、昨年行った見回りについては、夜間ではなく、昼間に行ったため、早期に夜間における点検も行います。
② 街灯	古くなった水銀灯の街灯は暗いので、付け替えが必要だが、LEDを使う方が安くて明るいので、検討してほしい。また、街灯の設置への補助は、新設のみで、付け替えなどの場合には、出ないのか。	LEDは新規設置の際、順次導入しています。市の補助で町内会が設置した街灯については、維持管理を町内会にお願いしています。電球だけでなく、灯具自体の付け替えについても、町内会のご負担となります。ご了承ください。
③ 佐伯昌徳氏の漆喰鏝絵作品	「とやまの名匠」に認定された田中町出身の佐伯昌徳氏は、県内指折りの左官職人で、手掛けた漆喰鏝(こて)絵の作品も素晴らしい代物ばかりだ。市立博物館等、市内に佐伯氏の作品は残っているのか。滑川出身の名匠に対する滑川市の対応状況はどうか。優れた鏝絵や白壁を後世に残し、新しく整備する児童館などで展示してほしい。	佐伯昌徳氏の作品について、平成24年度に博物館で企画展を行いました。地元出身の名匠による企画展とあって大変盛況でした。佐伯氏はまた、鏝(こて)絵の著名なコンクールにおける受賞作品などを博物館に寄贈されており、市ゆかりの名匠の貴重な作品を何とか残し、活かす方法を考え、多くの市民が目にする事ができるよう努めます。児童館等の公共施設での展示も前向きに検討します。
④ 歴史的建造物や保存樹	歴史的価値ある建造物や樹齢を重ねた立派な樹木が、むやみに解体されたり、伐採されたりしていないか。歴史的な街並みや豊かな自然と言った財産を、後世に残すためのリストアップを行っているのか。また、東福寺野は従来ギフチョウの生息地だったが、伐採等で姿を消したと聞く。まずは現状把握のためのマップ作りなどを急いでほしい。	大変貴重なご指摘を頂き、ありがとうございます。貴重な樹木等を後世に残していくよう、職員にも強く注意を呼び掛けていきます。
⑤ 通学区域	平成31年に通学区域が見直されると聞いた。地元の田中小学校は、耐震化工事で立派な校舎が完成したばかりなので、大丈夫だとは思いますが、魚津市のように、学校再編による合併など起きないか心配だ。	通学区域は平成21年に見直し、平成31年まで経過を見ます。平成31年に即、見直すのではなく、教育委員会による一方的な線引きも行いません。地域と連携し、より良い状態に調整します。統合は、さらに急速に少子化が進めば話は別ですが、市内の校舎は耐震化や冷房整備など多くの設備投資を行っており、すぐには統合しません。子育て支援策や教育の充実化を推進する「子ども第一主義」を堅持します。
⑥ 院内保育・病児保育	子どもが体調を崩しても親が迎えに行けず、祖父母が連絡を受けて迎えに行くことが多い。こうした課題を解消できれば、子育て世代の転入や出産の増加につながるのではないか。	市では子育て支援を推進する中で、病児保育の研究も進めています。公立病院を持つ自治体では、病院で子どもを預かる院内保育を実践する動きもみられます。先進的な事例を調査し、より良い施策につなげます。
⑦ ウォーキングコース	「いをのみ公園」から上市川沿いにウォーキングコースが整備された。市内各地で同様のコースがあり、年々、整備も進めるだろうが、最終的な全体像がどうなるか、構想はあるのか。また、木を植えて日陰を作ったり、休憩所を作ったりしてほしい。	ウォーキングコースは市内10カ所に設定してありますが「もっと長く歩きたい」という要望も多いことから、今後は各コースを有機的に結び付けたり、トイレ整備や地図づくりも検討します。休憩所等の構造物は規定上、整備が難しい面があります。滑川運動公園では未整備地内に、上市川や新幹線を望める見晴らしのよい丘を作る構想で、こういう特徴的な場所もコース内に設定するよう、工夫します。
⑧ 養鶏場建設問題	魚津市鹿熊地内の養鶏場建設問題は、新しい県議会議員も誕生したこともあり、ぜひ、一丸となって取り組んでほしい。	市議会も含め、オール滑川で力を合わせ、頑張ります。

## 滑川西地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑨ 中滑川駅周辺の整備	<p>市の活性化には、中心部である東・西地区の市街地開発に注力すれば、効果が全市に波及し、問題解決に最も手っ取り早い。西地区は、かつての新興住宅地で高齢化が進み、空き家や高齢者だけが住む「空き家予備軍」世帯も多い。中滑川駅も今は乗降客が少なく、近くの商店街も寂しい。同駅の旧農協会館跡地を利活用し、人口減少に歯止めをかけてほしい。</p>	<p>過去1年間の富山県の市町村別人口増減データによれば、舟橋村を除き、軒並み減少する中、滑川市は県都・富山市と並んで最も減少率が小さい部類です。本格的な人口減少時代の今、全国の自治体が人口確保にしのぎを削っていますが、滑川市は「子ども第一主義」に基づく子育て支援策や定住促進策が功を奏し、新たな転入者や、一時的に滑川市を離れていた出身者が、市内に新たに家を建てるケースが目立つようになってきました。このほど、定住促進ポスターを作成し、担当部長らが、市内の企業を回り、経営者や、転入が期待できる若手従業員を念頭に、滑川の住みよさ、家を建てやすい土地の安さ、子育てのしやすさを市内不動産業界とも連携しPRしています。昨年度作成したイメージアップポスターも、首都圏などでのPRに積極活用しています。</p>
⑩ 市関係施設の整理	<p>道の駅ウェーブパーク滑川の物販施設やレストランは、大型バスの観光客に対応できる容量がない。また、あいらぶ湯の深層水風呂は、売りにするにはあまりに狭く中途半端だ。タラソピアなど市が関係している施設全般についても整理・見直しを求める。</p>	<p>タラソピアについては、利用者側から存続を求める声が次々寄せられています。県内に留まらず、東京や大阪などにも根強いファンがいます。しかし、このまま存続すれば、今後10年間だけでも約2億円の必要コストが必要で、厳しい状況にあります。また、躯体など建物全体が塩水で老朽化しており、存続は容易ではありません。塩に強い建材も流通していますが、大変高額なようです。道の駅全体で考えていきたいと思えます。</p>